

次の問題1、問題2のうちの1つを選んで、解答しなさい。
解答用紙には、問題1、問題2のどちらを選択したか明記して解答すること。

問題1 日本人の食事摂取基準(2020年版)の食物繊維に関する記述を読んで、下記の問いに答えなさい。

本部分については
著作権上の制約により
掲載することができません。

【出典】

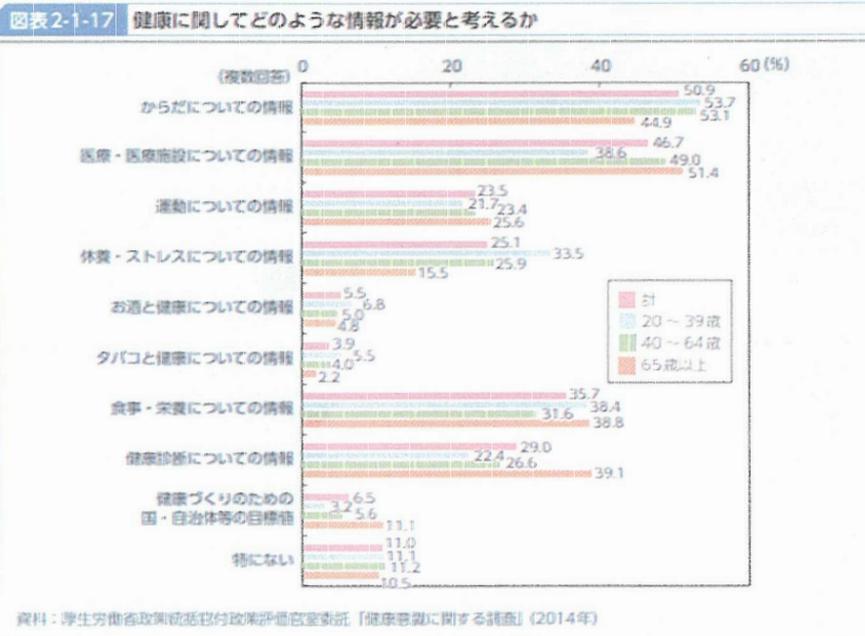
日本人の食事摂取基準(2020年版) p.153 (文献番号は削除)

<https://www.mhlw.go.jp/content/10904750/000586553.pdf>

- 問1 下線部①に関して、なぜ食物繊維摂取量と負の関連があるのか。考えられることを記述せよ。
- 問2 下線部②に関して、理由について考察せよ。
- 問3 水溶性食物繊維を効果的に摂取するにはどうしたらよいか。あなたの考えを述べなさい。

問題2 以下の文章を読み、問いに答えなさい。

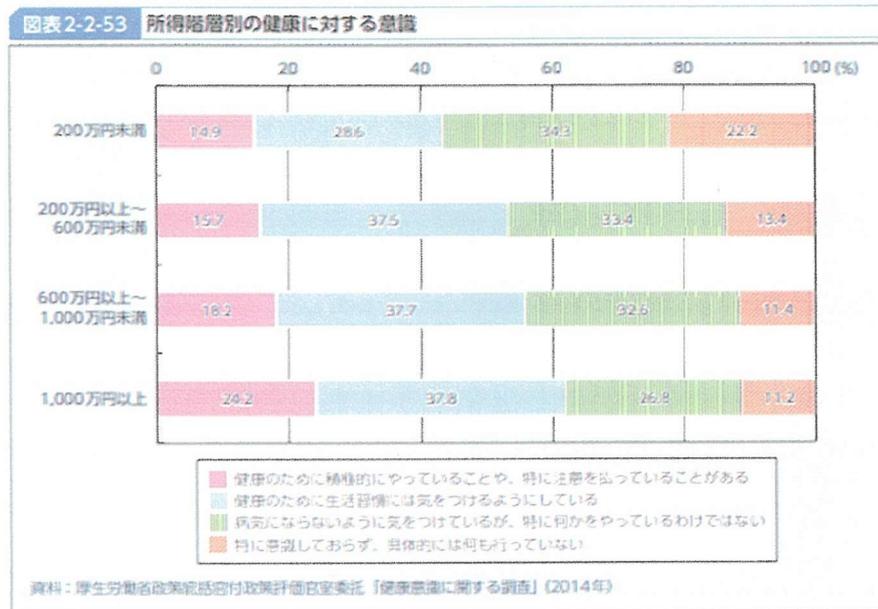
I. 我が国は世界有数の長寿国となっているが、国内でも地域により状況には差がある。そこで、平均寿命の長い県と短い県、健康寿命の長い県・短い県の間で、健康に対する意識の違いが見られないか検証した。具体的には、①平均寿命が男女ともに上位10位以内、②平均寿命が男女ともに下位10位以内、③健康寿命が男女ともに上位10位以内、④健康寿命が男女ともに下位10位以内、の4グループに分けて、2014年厚生労働省委託調査の結果を分析した。その結果、①と②を比較すると、「健康に関してどのような情報が必要だと考えるか」「健康に気をつけていることは具体的に何か」「今後、健康のために気をつけたいことはあるか」「食生活で具体的に気をつけていることは何か」など、複数の選択肢をいくつでも選んでよい質問に対して、平均寿命が長い地域の方が短い地域と比較してより多くの選択肢を選んでいることがわかった。また、③と④を比較した場合も、①と②ほど差は開かなかったものの、同様の傾向が見られた。他の個別の項目については、①と②、③と④を比較した場合、相関関係が明確と言えるものを見出すことは難しかったが、平均寿命又は健康寿命の長い地域の方が、短い地域と比較して、健康についてより多くのことに関心を持ち、気をつけていることがうかがわれた。



(問題2の続き)

II. 2010(平成22)年の国民健康・栄養調査によると、朝食を欠食する人や野菜摂取量の少ない人、運動習慣のない人、習慣的に喫煙している人の割合は、いずれも所得の多い世帯よりも低い世帯の方が高くなっていった。

2014年厚生労働省委託調査でも、所得が低い人の方が高い人と比較して、健康に対する意識が低くなっている。具体的には、「普段から健康に気をつけるよう意識しているか」という質問に対して、年間の所得が200万円未満の層では「健康のために積極的にやっていることや特に注意を払っていることがある」や「健康のために生活習慣には気をつけるようにしている」と答えた人が合わせて43.5%であったのに対し、1000万円以上の層では62.0%いた。健康感については、「非常に健康だと思う」又は「健康な方だと思う」を選んだ人が、200万円未満で61.0%なのに対し、1000万円以上では77.6%いた。



(IおよびIIは平成26年度の厚生白書より抜粋)

【出典】

平成26年度の厚生白書

<https://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kousei/14/dl/1-02-1.pdf>

問 上記のような結果となったことについて、IとIIに対して別々に考えを述べなさい。